

製品安全データシート

Hexyl Cinnamic Aldehyde

作成 : 2023/11/1
改訂 :

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称 α -ヘキシルシンナムアルデヒド
 会社名 Eternis Fine Chemicals Ltd.
 住所 1004, Peninsula Towers, 10 th Floor, Peninsula Corporate Park, G.K. Marg, LowerParel, Mumbai-400013, India

担当部署
 担当者 [Salomi Samuel](#)
 電話番号 +91-22-66513400
 FAX番号
 メールアドレス sales@eternis.com
regulatory@eternis.com
 緊急連絡先番号 [0120-015-230](tel:0120-015-230)

販売代理店 サンケミカル株式会社
 住所 東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
 電話番号 03-3661-6681
 FAX 03-3661-7055
 メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp
 HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意
 香料原料

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類
 物理化学的危険性:

健康に対する有害性: 皮膚感作性 区分1B H317

環境に対する有害性: 水生環境有害性 短期(急性) 区分1 H400
 水生環境有害性 長期(慢性) 区分2 H411

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素



● 絵表示又はシンボル

● 注意喚起語 警告

● 危険有害性情報

H317 皮膚にアレルギー反応を引き起こすおそれがある
 H400 水生環境に有害
 H411 水生環境に長期間にわたり有害

● 注意書き

【安全対策】
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 使用前に取扱説明書を入手すること。

P261	蒸気やダストの吸引を避けること。
P273	環境への排出を避けること。
P280	眼、手、顔の保護具を着用すること。
P302+352	皮膚に付着した場合、多量の水で洗い流すこと
P333+313	皮膚に刺激や発疹が出た場合、医師の診断を受けること。
P391	漏出物を回収すること。
P501	法令条例に従い、内容物と容器を廃棄する。

【応急措置】

吸入した場合	吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 吸入した場合、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

換気のよい涼しく場所で密閉保管すること。
容器の受け入れ場所で接地をすること。
防爆型の電気、換気、照明設備を使用すること。
火花が出ない工具のみを使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講じる。

【廃棄】

法令条例に従い廃棄処分すること。環境に放出しないこと。
洗浄した空容器はリサイクルか廃棄すること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名

慣用名・別名

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS番号

165184-98-5 、 101-86-0

成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

3-2657

GHS分類に寄与する成分

▲ 項目4 応急処置

吸入した場合	吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 吸入した場合、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護

医師に対する特別な注意事項

毒劇物の場合、解毒剤

項目5 火災時の措置

消火剤 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス

使ってはならない消火剤

火災時の措置に関する
特有の危険有害性 燃焼時、一酸化炭素と有機化合物が形成される。

特有の消火方法

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋
安全グラス
保護具
熱や火災にさらされている場合、呼吸機器を身に着けること。

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

吸引を避けること。眼、皮膚の接触を避けること。
裸火を近づけない事。容器を密閉すること。
大量/密室で漏れた場合、避難方法を考慮すること。

汚染場所から離れる事。関係のない人を避難させること。換気をする事。
項目8を参照ください。

手袋、顔の保護具、密室での漏出時、酸素呼吸器を着用すること。
適切な保護具は項目8を参照下さい。

環境に対する注意事項

漏出物を適切な容器に入れる。漏出液を塞いで、漏れを止める。
土壌と水を汚さないようにする。
下水に流れないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

非可燃性の容器に、液体を集めて入れる。
土、砂、ひる石、けいそう土等。吸い取った後に密閉容器に入れる。
丁寧に残りを集める。傷ついた容器は空にしておくこと。
汚染された部分は水でクリーンにしておくこと。

二次災害の防止策

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策
(局所排気、全体換気)

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、
保護具を着用する。
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項

裸火、熱に近づけないこと。
保護具を着用の上で取り扱うこと。
産業衛生を遵守すること。
十分な換気のある環境で取り扱うこと。
取扱い場所では禁止(飲食、喫煙)

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

厳しく監視すること。容器は密閉すること。汚染された衣類は直ぐに脱ぐこと。
廃棄物を下水に流さないこと。

保管

安全な保管条件	換気のよい涼しく場所で密閉保管すること。 容器の受け入れ場所で接地をすること。 防爆型の電気、換気、照明設備を使用すること。 火花が出ない工具のみを使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講じる。
近づけてはいけないもの	
安全な保管保管包装材料	元の容器

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005年版)	未設定
ACGIH(2005年)	未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。または換気を行うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

アース線の接地を行うこと。裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけないこと。
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。
粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。
呼吸器官を保護、もしくは局所、全体換気の管理で作業を行うこと。
厳格な衛生管理の下で作業し、容器は密閉し、作業中の飲食と喫煙は避けること。

保護具

呼吸用保護具	ガス蒸気の濃度が高い際、ガスマスクを着用する事。
手の保護具	化学品用の保護具
眼の保護具	面の保護具
皮膚及び身体の保護具	防護服

特別な注意事項

項目9 物理的及び化学的性質

物理的状态	液体
色	黄色
臭い	グリーンフローラル
融点・凝固点	17.6°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データ無し
可燃性	可燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データ無し
引火点	151°C(密閉)
自然発火点	235.5°C
分解温度	データ無し
pH	データ無し
動粘性率	11cps@25°C
溶解度	水 1.62mg/L @20°C
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	5.3 log POW @24°C
蒸気圧	0.068Pa @25°C
密度及び/又は相対密度	0.95 g/cm ³ @20°C
相対ガス密度	データ無し
粒子特性	

その他のデータ

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	物質そのもの自体と水に触れることでの反応はない。
化学的安定性	通常保管は安定。
危険有害反応可能性	通常では安定 引火点以上になると火災のおそれがある
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	裸火、熱に近づけない事。 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。 粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
混触危険物質	可燃物、酸化剤、強酸、塩基
危険有害な分解生成物 その他	燃えた場合、一酸化炭素と有機化合物を発生させる。

★ 項目11 有害情報

急性毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体	雌雄	値の決定
経口	LD50		3100mg/kg		ラット		
経皮	LD50		>300mg/kg		ラット		
吸入	LD50		データ無し		ラビット		

急性毒性区分5

皮膚腐食性/皮膚刺激性

利用可能なデータでは、分類基準に満たない。
ラビットでわずかに刺激がある。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼刺激 ラビット 刺激がある
眼刺激 陰性

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性 区分1B
局所リンパ節 感作性あり

生殖細胞変異原性

AMESテスト 陰性

発がん性

利用可能なデータでは、分類基準に満たない。

生殖毒性

利用可能なデータでは、分類基準に満たない。

特定標的臓器毒性、単回曝露

利用可能なデータでは、分類基準に満たない。

特定標的臓器毒性、反復曝露

利用可能なデータでは、分類基準に満たない。

誤嚥有害性

利用可能なデータでは、分類基準に満たない。

その他

項目12 環境毒性情報
生態毒性

	基準	方法	値	期間	被検体	試験設計	淡水/塩水	値の決定
急性毒性 魚	LC50		1.7mg/L	96H	ファットヘッド ミノー			
急性毒性 無脊椎動物 魚に対する 慢性毒性	EC50		0.36~0.59mg /L	48H	大ミジンコ			
長期毒性 無脊椎動物	NOEC		63 μg/L	21D	大ミジンコ			
	EC10		69 μg/L	21D	大ミジンコ			
	NOEC		32mg/kg	28D	オヨギミズ			

残留性・分解性
OECDガイドライン 301F 28day 容易に生分解する。

生態蓄積性
Partition coefficient Nオクタノール/水 (log Kow): 計測 5.3

土壌中の移動性
Adsorption coefficient: Log Koc @20°C: 計測 4.2

オゾン層への有害性

他の有害影響

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

法令条例に従い廃棄処分すること。環境に放出しないこと。
洗浄した空容器はリサイクルか廃棄すること。

項目14 輸送上の注意

国際規制
国連番号 3082
品名(国連輸送名) Liquid N.O.S ((E)-2- benzylideneoctanal)

国連分類 9
(輸送における危険有害性クラス)

容器等級 III
海洋汚染物質 非該当
(該当・非該当)

MARPOL73/78附属書II及び 非該当
IBCコードによるばら積み輸送される液体物質
(該当・非該当)

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

国内規制がある場合の規制情報

その他 非該当
応急措置指針番号

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化管法	第一種 政令番号1-449 管理番号734
安衛法	2023年11月 通知表示対象物質 非該当
	2025年4月 通知表示対象物質 該当
毒劇法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	該当なし
消防法	消防法 第2条危険物第4類第3石油類非水溶性液体(2,000L) 危険等級
化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
パーゼル法	第2条特定有害廃棄物等(0.1%重量%以上含む物)
外為法	輸出令別表第2の35の2項(0.1%重量%以上含む廃棄物) キャッチオール規制

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルMSDS
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE
職場のあんぜんサイト
2016年版 16716の化学商品

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用性を対象としたものではありません。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くても良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
色分け	2019年改正JIS Z7252/Z7253		(但し、ラベルに全て載せる必要はない)